

総務常任委員会 管外視察報告

7月26日～27日にスケートパーク整備、社会福祉連携推進法人の運営の観点から、取り組むべき課題を探求するため先進的な取り組みを行っている自治体及び民間団体を視察しました。

① 田辺公園スケートパーク（京都府京田辺市）、久御山中央公園スケートパーク（京都府久御山町）



田辺公園スケートパークの様子

両施設とも、セクション（スケートボード用に造られたアイテムや障害物）は各自治体の設置で維持管理が行われている。基本的な安全管理は公園施設と同等の考えで行われていた。個人の持ち込みもある程度認められており、利用者自身がルールを守って利用している施設となっている。

飛騨市の施設は、場所は提供するがセクションは個人での設置である。固定はされないため、利用の際に移動や木製では腐食する恐れがあり、安全管理についても自己責任となるのかなど、リスク管理に対しどうするのか課題である。

② 社会福祉連携推進法人リガーレ（京都府京都市）



リガーレの理事長と面談する委員等

認定第1号の連携推進法人としてしっかりした考えで事業が動いている。5つの法人からの会費でスーパーバイザーを2名雇い、各法人を廻っている。初任給と年間休日は全ての法人で統一した。しかし、地域差があるので給与は係数加算や、手当で差をつけている。職員が辞めない体制づくりが重要でそこに力を入れていることが分かった。

飛騨市の場合、地域柄人材確保に難しい面が考えられるが、連携推進法人の制度をうまく活用し、参加法人を増やすなどして人材確保に努めていただきたい。

産業常任委員会 管外視察報告

8月2日～4日に森林整備、バイオマス発電、ローカルベンチャー、里山整備の観点から、取り組むべき課題を探求するため先進的な取り組みを行っている自治体を視察しました。

① 森林整備、バイオマス発電、ローカルベンチャー（岡山県西粟倉村）



バイオマス発電用に導入した中型チップパー

人口1,355人という小さな村の西粟倉村だが、平成の大合併では自主自立の道を選び林業でやっていく決意のもと、「百年の森林構想」をスタートさせた。ベンチャー企業が「百森構想」関連事業の推進に大きくかかわり、川上の森林施業は行政、川下では民間が付加価値をつけ林業の六次化を実践している。また、脱炭素先行地域として、水力発電と木質バイオマス事業が盛んである。木質バイオマス事業では森林間伐材を利用したチップボイラーを導入し大規模に取り組んでいる。

② 里山整備（岡山県真庭市）



担当者から説明を受ける委員等

真庭市は「自治体SDGsモデル事業」として国から選定され、確実に実績を積んでいる。「大きな里山資本主義」の代表はバイオマス発電であり、林業、木材産業がしっかり定着している。「小さな里山資本主義」は地域に根差した特色ある資源を活用した事業が展開され、市は民間の動きに合わせバックアップしていくという方針を一貫している。

一方、生ごみ資源の活用による「バイオマス循環システム」にも注目したい。生ごみをバイオ液肥に変換し田畑への肥料に使用。副産物のバイオガスは発電に利用し、回る経済の一環として確立をめざしている。